

【花が咲く季節に想うこと】

百花繚乱の季節。

まさに、咲き乱れる花々。

個性豊かな色や花びらを見て心が癒されると同時に、ふっと想うこと。

小さな種が、誰に教わったわけでもなく、芽を出し、花を咲かせ、

また、種を残す。

どんな小さな草花も、自分に与えられた役目をしっかりと認識し、

キツチリと与えられた世代を終えていきます。

誰も見ていなくても、何のためらいもないように、繰り返される摂理。

愚直なまでの役目の全う。

わたしたちの存在を省みるとき、いろいろな悩み、与えられた役目……

それをはるかに超えたいのちの輝き。そうしたものを作り出した

悠久の時間と自然の偉大さを感じます。

花や野菜や樹木を育てること、

自分がそんな世界の一部に触れる

ことができるという不思議な

よろこびをおげえます。

